

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

城西中学校区	校番	福山市立泉小学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月7日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○学習に対する取組みは、各校ともに一定の成果がでており、小中ともに児童生徒が意欲的に学びに取り組んでいる様子がわかる。</p> <p>○コロナ禍でできなかった様々な活動や行事ができるようになり、子ども達が生き生きと楽しく学校生活を送っていると感じられる。</p> <p>●デジタル機器の活用は必要だが、それにより家族等との会話が少なくなることが心配だ。</p> <p>●読書活動など、各校の良いところをお互いに取り入れていくことが大切である。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○「子ども主体の学び」の実現に向け、校区で研究・実践を継続し、授業改善が進んでいる。</p> <p>○行事等を通して小中の連携が図られ、意欲的に頑張る児童生徒の姿が多く見られる。</p> <p>○コロナの状況も落ち着き、学校行事を中心にあらゆる活動に主体的に取り組む、自分たちが学びを創り上げるという意識も高まった。</p> <p>●コロナ禍の影響もあり、長期欠席者が多い状況がある。引き続き、小中が緊密に連携し、丁寧な取組を行っていく必要がある。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>コミュニケーション力・表現力・忍耐力</p> <p>地域に愛着と誇りを持ち、心豊かにたくましく生きる子ども</p> <p>○自己肯定感を高める。(合同ボランティア活動・オープンスクール)</p> <p>○コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける。(校区公開授業研究)</p> <p>○健康への意識を高め、体力向上を図る。(体力向上の取組・体力テストの分析・校区保健だよりの発行)</p>
---	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>児童が自ら学び、相互にかかわり高め合う教育活動を行うことで、次世代を担う人材を育成する。</p>	<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び、仲間とともにたくましく生きぬく子どもを育てる</p>	<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <p>自己表現の仕方やコミュニケーションの取り方に課題がみられる。問題解決にむけて、児童一人一人の思いに寄り添いながら取り組んできているが、朝、定刻に登校することが難しい児童もいる。また、学力面においては、各種調査において、結果を上回る学年があるものの全体的に活用問題に課題がみられる。新体力テストは、持久力や俊敏性などに課題がみられた。体育の授業でこれらの課題が改善できる運動を取り入れて実施している。</p> <p><授業></p> <p>組織的に研究主任を中心として、子どもがどのように学ぶかの視点で互いの授業を見合い研修を行ってきた。その結果、児童の学びをどうコーディネートするかに課題意識が高まってきている。引き続き、互いの授業を見合い議論しながら、日々の授業づくりを進めていく。また、アセスメントアンケートを実施し、児童の学校適応度も見取ることで、生徒指導の観点からも学びへのアプローチをしていく。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>コミュニケーション力・表現力・忍耐力</p> <p>めざす子ども像</p> <p>○自分や他者を理解し、自ら考え判断し、表現する子ども</p> <p><表現力></p> <p>様々な場面で言葉や技能を用いる。 信頼できる知識や情報を収集し活用する。</p> <p><コミュニケーション力></p> <p>目標を達成するために、他者と協働する。 意見の対立や理解の相違を互いの違いを認め合いながら解決する。</p> <p><忍耐力></p> <p>感情をコントロールし、ルールを踏まえて建設的な意見を述べる。 見通しをもって計画的に行動し、軌道修正しながら最後までやり遂げる。</p>
<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>学ぶことへの面白さを感じ、学びに向かう力を伸ばしていく授業づくり</p> <p>・「学びが面白い」と実感する個別最適な学びの実践</p> <p>・子ども・教材への理解を深める教材研究</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>・個別最適な学びを通して、子どもたちが面白さを感じられるような授業</p> <p>・個別や仲間との学び合いを組み合わせ、課題解決していく授業</p> <p>・個の学びを見取り、児童が「できた」「わかった」「次はこうしてみたい」という思いや自信がもてる授業</p>	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立泉学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70% 達成 評価	70% 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 達成 評価	70% 達成 評価	総合 評価	改善方策
2	課題を見出し、解決に向けて挑戦する意欲と諦めずに学び続ける力を付ける。	★	継続	児童一人一人の知っていることを生かした学びを展開し、児童が自らの伸びや成長を実感することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びを取り入れ、児童の学習の振り返りから授業改善に取り組む。 教材研究を深めるために、研究体制の刷新を図った授業づくりを行い、児童の学びのBefore・Afterが実感できるように振り返りをし、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート【学びが面白い】肯定的回答 85%以上 児童アンケート【成長実感に関する項目】肯定的回答 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びを取り入れ、児童の振り返りから授業改善に取り組み、学びが面白いと感じる児童の割合は、約90%であった。 職員で実践交流や教材研究を計画的に行い、児童が成長を実感できる振り返りを実践したことで、成長を実感している児童の割合は、約88%であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> アセスアンケートや児童の振り返りから、「児童一人一人の学びやすさ」や「障壁の要因」を分析し、学びの環境づくりに取り組む。 児童がより成長の実感を感じられるように、振り返りの視点を焦点化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びを取り入れ、児童の振り返りから授業改善に取り組み、学びが面白いと感じる児童の割合は、約87%であった。 職員で実践交流や教材研究を計画的に行い、児童が成長を実感できる振り返りを実践したことで、成長を実感している児童の割合は、約90%であった。 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> アセスアンケートや児童の振り返り、教職員同士の協議から、「児童一人一人の学びやすさ」や「障壁の要因」を分析し、学びの環境づくりに取り組む。 児童がより成長の実感を感じられ、次の学びにつながるような振り返りの視点を明確化し学校全体で意識統一して取り組む。
2	誰もが自分らしく学ぶことができる学校づくりに貢献できる。		継続	学校生活をよりよくするために、自分たちができていることを考え行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活や行事等様々な場面で、相手意識をもたせてコミュニケーションの機会を設定する。 アセスアンケートを実施し、児童の学校適応度を見取る。 縦割班等を活用し、学校内、教室内で一人一人の居場所づくりに努め、自他の思いや考えが大切にされる学級集団を組織する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会や委員会、各学級から全校へ取組の発信や、学校生活をよりよくしようと主体的に行動している児童の紹介(評価)を月に5回以上行う。 生活満足感の数値が40以下の児童5%以下 学校は安心して生活ができる場所であると捉える児童90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をよりよくしようと主体的に行動しているクラスや児童の紹介を月に3回程度行った。 生活満足感の数値が40以下の児童は約10%だった。 学校は安心して生活ができる場所であると捉える児童は約87%だった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 大休憩や昼休憩を活用し、月に2回以上児童会と職員で学校の様子を話し合い、評価する放送の計画を立てる。また、各委員会の取組を児童会と共有することで評価ができるシステムをつくる。 生活満足感が低かった児童を教職員で共有し、自己肯定感向上のために、積極的に声をかけたり、活躍の場を作ったりする。 児童会や委員会の取組を通して、一人一人の居場所づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をよりよくしようと主体的に行動しているクラスや児童の紹介の放送を月に4～5回程度行った。 生活満足感の数値が40以下の児童は約8%であった。 学校は安心して生活ができる場所であると捉える児童は約91%であった。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、大休憩や昼休憩を活用し、月に4回以上児童会と職員で学校の様子を話し合い、評価する放送や取組みの計画を立てる。また、各委員会の取組を児童会と共有することで評価ができるシステムをつくる。 生活満足感が低かった児童についてのアセスメント会議を行う。また、そこから挙げてきた児童へのアプローチ方法を教職員で共有する。 児童会や委員会の取組を通して、一人一人の居場所づくりに努める。また、学校全体で成果や課題を放送等で、共有して取り組む。

2	自ら進んで健康保持、体力向上に努める。		継続	健康診断、体力テストの結果等から、自らの健康について課題意識をもち、改善に向けて取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断、体力テスト等の結果から、自身の課題を明確にし、改善するための取組内容・方法を決めて改善に努める。 体育科の授業改善を進めるとともに、休憩時間などに、楽しく遊びながら体を動かす活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の健康面・体力面の課題を明らかにし、改善計画を作成し、実行している児童85%以上 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答する児童15%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の健康・体力の課題をもとに目標を決め、課題改善に取り組めた児童は約85%だった。 健康・体力の課題から取組内容・取組方法を決めて改善に努めている教員は約93%だった。 体育授業改善と体を動かす活動の推進を進めた。運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した児童約15%だった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度導入した「泉っ子体操」の継続とともに新体力テスト重点課題項目の再測定を行い、児童がさらなる目標を設定し、課題改善できる取組を進める。 クラス遊びや全校遊び等、楽しく体を動かす活動の推進を継続し、教職員も一緒に身体を動かす機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の健康・体力の課題をもとに目標を決め、課題改善に取り組めた児童は83%だった。 体育科の授業改善や体を動かす活動の推進をした教員は100%であった。 健康・体力の課題から取組内容・取組方法を決めて改善に努めている教員は約86%であった。 運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した児童約17%であった。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ステップアップカードや健康の記録等を活用させ、児童に自身の健康・体力の課題を把握させ、目標を明確にして取り組ませることで児童の行動化を図る。 アンケートや児童の実態から課題や取組内容、方法について教職員が交流する場を設け、全体で共有する。 定期的に全校遊びや体力づくり週間を企画し、継続した体力づくりに取り組む。
2	「働き方改革」に取り組み、自らの個性や能力を発揮しながら子どもたちとともに挑戦し続ける。	★	継続	業務を計画的に効率よく遂行する力をつけるとともに、「子ども主体の学び」づくりに向けた授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容に応じて臨機応変に定時退校日を設ける。 「子ども主体の学び」づくりに向けた授業交流や実践交流の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務月45時間以内を100%(管理職を除く) 子どもと向き合う時間が確保され、やりがいを感じる教職員(管理職を除く)80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 月初めに定時退校日を提示することで、業務全体も時間の使い方意識して取り組んでいた教員は100%であった。 学力調査分析を基に授業改善や教材研究の交流を進めた教員は約71%であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 前期の取組の継続と入退校時刻の確実な記録、業務軽減のために校務補助員への依頼を促す。 短時間での実践交流の機会を計画的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して時間外勤務45時間以内100%を継続できた。 「子ども主体の学び」づくりに向けた授業改善に取り組む教職員は86%(中間より15pt増であった)。 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 入退校時刻の一層確実な記録を促すための記録環境の充実を図る。 実践交流内容や個々の児童に応じた支援方法を焦点化した場を設ける。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。